



孝橋

服部文庫
イ 17
2189
39



117 73

大恒親王内使者井田五藏公同書



大恒親王出陣より奉り當人より西宮十一月八日の内使者井田五藏公同書

一 大恒親王制元平山鹿流より其流に不用鹿甲に跡出
於唐岳表甲申より申事石成と觸出一檢叙し唐日旗
亦亦勿漏一切石目只鏡に官に領と西洋風に討隊將に言
珍るを尤也神と去物是を以て改革も亦亦亦此度跡
変事之令と出候は未定事と當月終るに觸出申事と交
わし候事と多分此令以に觸出申事との事

一 大恒親王の田所流甚所統に為り同 其當に未目程
其流に大なる事於此由右田所流に統に申す事用唐岳
古自之に於統に交此度其公事と申す事一第申に條と統

高火友、致し... 運轉出利... 事...

一 出る軍夫、皆民之用、交住有、能備、尤為、約束と、能...

一 歩退り、時、一歩、... 隊...

一 右、... 均...

一 或、一歩、退り、時、... 村...

一 間、深、... 入、... 但...

一 至、... 入、... 均...

一 至、... 入、... 均...

一 至、... 入、... 均...

一 至、... 入、... 均...

一 算、洋、... 隊、特、... 洋、... 法、... 一、...

一 他、... 算、... 敵、... 自、... 甚、... 大、...

一 砲、... 算、... 又、... 地、... 伏、...

一 此、... 算、... 他、... 伏、...

一 一、... 算、... 伏、...

一 一、... 算、... 伏、...

一 形、... 算、... 伏、...

一 部、... 算、... 伏、...

一 入、... 算、... 伏、...

一 是、... 算、... 伏、...

一 左、... 算、... 伏、...

一 磯の陸軍は政事尤事柄を成し事具は舊色に下し人馬
 衣被はつりし百納新経計に陣蔵し渡り費用し一舟が戦
 争に下りし皆一統去りしつれ故罪めりしを新元上洋具
 へ渡りし事は死なば事しは不承自燃し事し先づ傷神事不
 便利に河神事不伊勢積事細に指目し事水と海に
 あり方と入つし水勝し事十の渾い事後報送り珍事
 實又麻に新経計に用し荆棘の火舟に腹腔に刺或杖
 分岐に用標し事入るる最所事つた事新元上洋具
 へ渡りし事自燃し事しは不承自燃し事し先づ傷神事不
 一 獲地を事し方と事し最所持事し事新元上洋具
 あり固事も事し

一 古事類記に十ボロカノコ海に事し事新元上洋具
 こと上賊法舟は事し陸に舟と打退す日辰事山に我
 時大同と撰向山にい然昔我は事し事異あり一昔十七人
 と配し始船陸地と事し距離事十の叶し事事服洗
 事し事事賊法舟と事し事し事山に事し
 事し事水戸は事話に事し事人
 一 古事類記に上陸後大垣隊を賊法に積糧と 依り

一 古事類記に上陸後大垣隊を賊法に積糧と 依り

此の時、陸軍は政事尤事柄を成し事具は舊色に下し人馬
 衣被はつりし百納新経計に陣蔵し渡り費用し一舟が戦
 争に下りし皆一統去りしつれ故罪めりしを新元上洋具
 へ渡りし事は死なば事しは不承自燃し事し先づ傷神事不
 便利に河神事不伊勢積事細に指目し事水と海に
 あり方と入つし水勝し事十の渾い事後報送り珍事
 實又麻に新経計に用し荆棘の火舟に腹腔に刺或杖
 分岐に用標し事入るる最所事つた事新元上洋具
 へ渡りし事自燃し事しは不承自燃し事し先づ傷神事不
 一 獲地を事し方と事し最所持事し事新元上洋具
 あり固事も事し
 古事類記に上陸後大垣隊を賊法に積糧と 依り
 古事類記に上陸後大垣隊を賊法に積糧と 依り
 古事類記に上陸後大垣隊を賊法に積糧と 依り

一長城隊名 奇兵隊 擄撃隊 仰楯隊 仰楯が其の
此島橋隊名 岩田人 由 玉 留 説 一 而 一 傷 一
擄撃一

一賊徒之死傷と古事 政事 徳川 仰 一八 子 官 三 官
側 不 助 之 引 込 主 引 込 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
宛 甚 切 之 引 込 主 引 込 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
我 官 之 引 込 主 引 込 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
古 抄 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

一古丈津 二日 三取 四合 徳川 又 又 又 又 又 又 又
事 官 之 引 込 主 引 込 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
我 官 之 引 込 主 引 込 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
古 抄 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
一 日 官 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
古 抄 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
後 在 中 一 日 官 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系
後 在 中 一 日 官 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系 柳 系

一 小倉より先月半以後休兵ありしは是より薩軍は後方を
討つ一事の進めぬ所を國境と改め是と境界あり
互に不協なり其事の進めぬ所を國境と改め是と境界あり
所を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは

一 是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは

道に出して或十人程を以て用ひ一陣の時
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは

一 是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは
是より薩軍は後方を討つ事ありしは是より薩軍は後方
を討つ事ありしは是より薩軍は後方を討つ事ありしは

正利堅苦の之減也と破山火領船二隻と買入る
中

一肥前藩の軍割に核割と廢し

一用使老侯と長人評判し冬之當に船を教習と散
しつゝ未時中玉ふりし止又聲と世して又時
そに紀とて止と名目耳

一肥後之藩偏に之以一変珍由之を紀存人も所入に也
そに神物と交りて之に論と関山が常と如く又と如し
と

一薩山松帯刀出京此人の當時も用を保市花月
才解るる人の此後大建お指多し風也とて之を信末

昔は石火石子大陽也の書系在正の由 薩草
而ふ所也と云 昔草而後廿久末尤草府
所交也と書るに有るに之を以て草而指す
又とす 此末の久末と云 昔の凡言止
の多き何れ一語偏に之を指す又云

一山陽守心別は果偏と申すに之を指すは薩山也薩
を指すは薩と助い申すに之を指すは久末の陽の象と云
今も之を以て物事之備に世に之を指すは薩也
之を直書するに方と云は之を指すは久末と云は之を指すは
山陽大系と云は之を指すは久末と云は之を指すは薩也
二十下 上條の 中條 内と而も説破るに方と云

一 孫京師之狀 神祖御法とあるが如く成り

中世の如く之を居るに之を思ふ事

一 聖徳太子武田耕田京師に於ては相承りて

神祖御法と云ふは西川 是れ抑留之を云ふ人好まむ尾

西川と云ふ尾州は同く是れ是れ西川に拒絶する

西川と云ふ尾州は出伊勢に赴き之を尾州と云ふ

折るに賊と云ふは西川と云ふは海濱に在りて

人をして物見たりと云ふは西川に舟乗坊と云ふは西川

と一時是れ是れ今尾州に福と嫁と云ふは西川に

と云ふは西川に拒りて之を西川に相承りて是れ

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

西川に拒りて之を西川に相承りて是れ西川に

然其... 遂... 中... 不... 海... 方... 論... 子... 一...
然其... 遂... 中... 不... 海... 方... 論... 子... 一...
然其... 遂... 中... 不... 海... 方... 論... 子... 一...

為... 報... 者... 之... 事... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
為... 報... 者... 之... 事... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
為... 報... 者... 之... 事... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

病者十服之藥死之者一曰助之と云之此方造志
と此中征也先年能也奉つて一々一方是れも少き言
ふ也

一 當年の三秋當年十三又と由先事の正秋の事先
年の中成育方の格位を改極少子恒也育方は自
身並健と云ふ事し如く位等一物を只と云ふ何分
止當に云ふ事如知りし由先事の正秋の事先
大なる事重しと云ふ事先代極少子恒也育方は自
當年の正秋の事十三又と由先事の正秋の事先
片も扱ふ人由先事の正秋の事先
言ひし由先事の正秋の事先

然るに云ふ事と云ふ事

一 方位より云ふ事と云ふ事
地事より云ふ事と云ふ事
二千八百名その他と云ふ事
武備より云ふ事と云ふ事
中當に云ふ事と云ふ事
新に云ふ事と云ふ事

一 君臣格と云ふ事
格列而美明命同

乃所事之天也。以所歸下。若公。以所歸。其。以。凡。七。
中仁政。郭。之。皆。后。農。為。也。之。歸。服。之。也。也。也。也。也。也。
時。已。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

